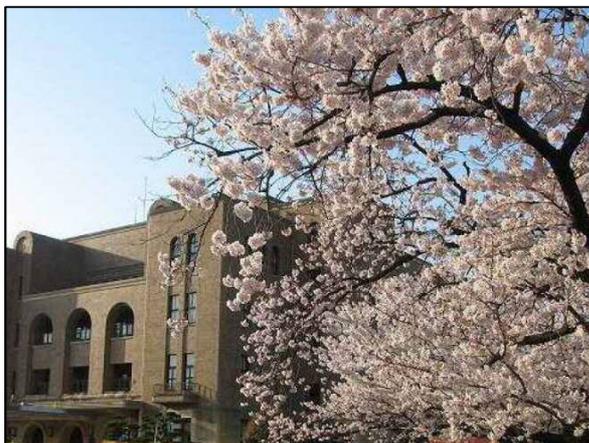




卒業生ならびにご家族の皆様、ご卒業、心よりお慶び申し上げます。

本日ここに、ご来賓の河村たかし名古屋市長、藤沢ただまさ市議会議長をはじめ、同窓会や後援会の方々のご臨席を賜わり、教職員一同とともに、卒業生の皆さんに卒業証書、学位記を授与する運びとなりました。



今年の卒業式の会場は例年と異なり、ここ名古屋市公会堂となりましたが、それが幸いして、日本さくら名所 100 選である鶴舞公園のさくらも例年より開花が早く皆さんを祝っているようです。わが国では、さくらと言えば入学式ですが、皆さんは、入学と卒業の 2 回にわたって、桜花爛漫の青空のもと記念写真を撮られることでしょう。

これまで研鑽を積んでこられた卒業生の皆さんに敬意を表するとともに、併せて、ご家族の皆様からのこれまでの温かいご支援に対し、大学を代表して深く感謝申し上げます。

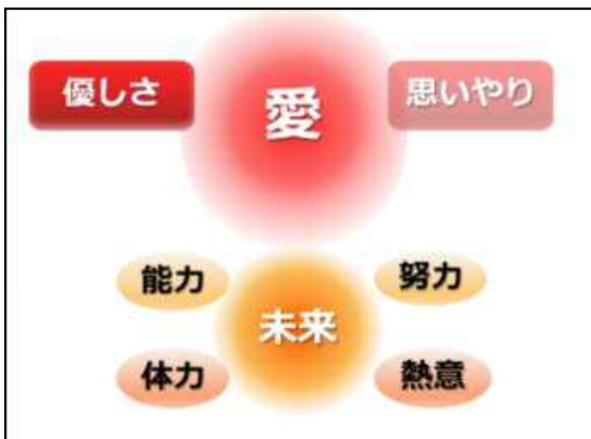


本日の式辞では、スライドを用いています。皆さんに、名市大の思い出と愛校心を鮮明にとどめていただきたいためです。それを踏まえ、社会で大きく羽ばたき、輝かしい「未来」を切り拓いていただきたいと思っています。



皆さん、輝かしい「未来」を切り拓くには何が必要でしょうか？

能力、体力、努力、そして熱意、それらはすべて必要ですが、十分ではありません。



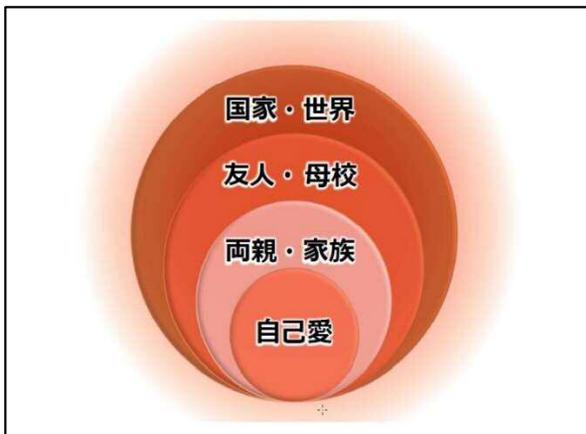
私は、それらに加えて、「人へのやさしさや、おもいやり」が大切だと思います。

「人へのやさしさや、おもいやり」は、「人を愛し愛される」ことから生まれるものです。そこで、本日は、「未来を切り拓く愛」をテーマに話をいたします。



皆さん、愛とは何でしょう？

スライドの文字のように、愛は真心で、恋は下心だと、ユーモアを交えて例えることがあります。それはさておき…。

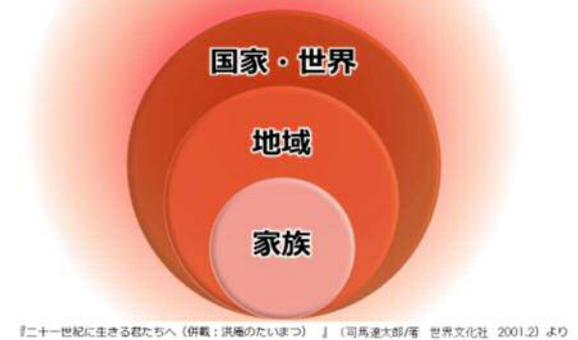


私は、愛の基本は自分への愛であり、それらが両親や家族への愛につながり、友人や母校への愛、さらには国家や世界へと、人それぞれの心のゆとりが大きくなると共に、「愛は広がり、進化する」のだと思います。

ここで皆さんに話したい2つのことは、一つは皆さんが今ここにあるのは、ご家族の「愛の結晶」であることで、もう一つは、名市大への愛校心をいつまでも持っていたいただきたいことです。

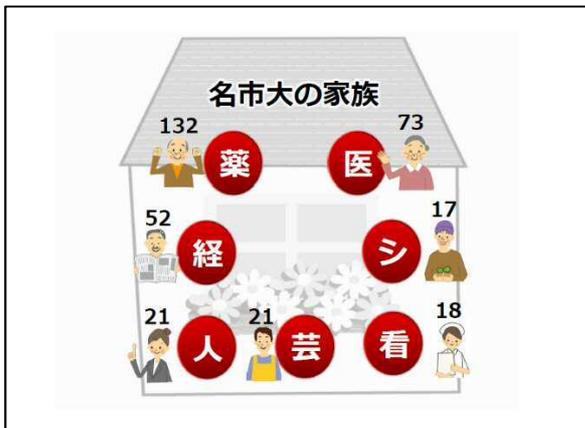
ところで、「未来を切り拓くに必要な、やさしさや思いやり」について、小説家の司馬遼太郎さんは、「21世紀に生きる君たちへ」と題して、小学6年生の教科書に、次のような趣旨のメッセージを書き下ろしています。

「助け合いの原点は優しさ、思いやりで、  
それらは訓練により身につけるものである」



『原始時代の社会は、家族を中心に  
した小さなものだった。それがしだ  
いに大きくなり地域となり、今では、  
国家や世界という社会をつくり、お  
互いが助け合いながら生きている。  
その助け合いは、「人」という文字  
が、ななめの画が互いに支え合っ  
ているのと同じである。助け合いの原  
点は、やさしさ、おもいやりであり、  
それらは本能で生まれるものではな  
く、訓練により身につけるものであ  
る』と説明しています。

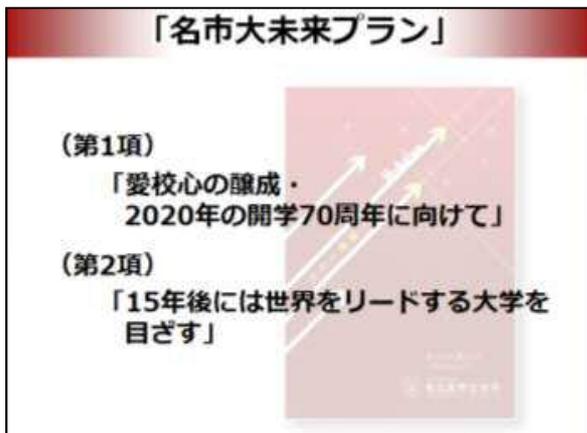
これらのことは、先に述べた、「愛  
は、心のゆとりと共に広がり、進化  
する」ことと同じだと思います。



この考えは、名市大にも通じるもの  
です。名市大は、132 歳になる薬学部、  
73 歳の医学部、昨年 20 歳になった人  
文社会学部と芸術工学部など 7 人の  
家族からなっています。それらの家  
族の全てが、助け合うことで名市大  
はさらに繁栄するのです。



その意味を込めて、一昨年、名市大では、国の憲法にあたる「大学憲章」を制定し、それを踏まえ「名市大未来プラン」を策定しました。家族の歴史や立場の違いを乗り越え、オール名市大として同じ未来に進む指針です。

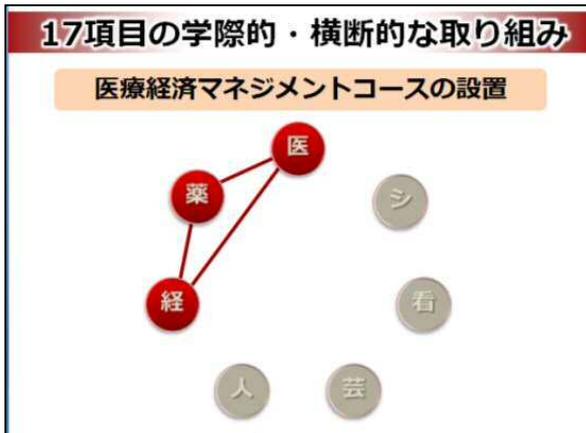


本日は、52項目あるプランの中から、皆さんに相応しいプランを2つご紹介します。第1章の、「愛校心の醸成、2020年の開学70周年に向けた気運を高める」ことにより、第2章の「名市大は、15年後には世界をリードする大学」をめざしてまいります。皆さんもその担い手になられることを期待しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

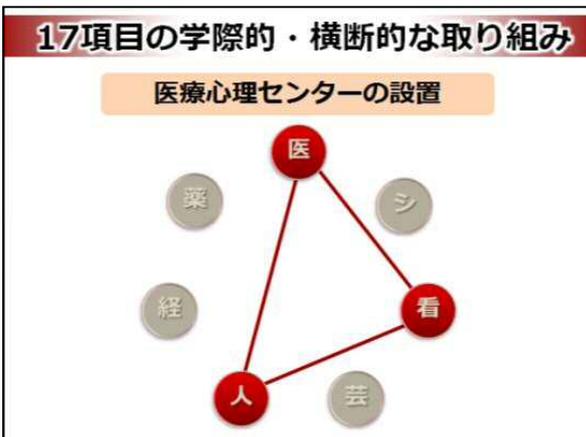


さらに昨年、開学65周年記念の式典において、名市大未来プランをもととした、各学部・研究科と附属病院の計8つの未来プランを公表しました。

その特徴は、自分たちの学部のことだけではなく、学部の壁を越えた横断的な取り組みを17項目取りあげていることです。本日はその中から、2つをご紹介します。



1つ目は、この4月からオープンする「医療経済マネジメントコース」です。経済学研究科が、医学・薬学と連携して、医療経済の専門家を養成する、全国で初めての大学院です。



2つ目は、来年オープン予定の「医療心理センター」です。これは、人文社会学部が、医学と看護学部と連携し、臨床心理士を養成するユニークな大学院で、社会からの多くのニーズに応えてまいります。



開学 65 周年記念として、約 40 のイベントを企画しています。その 1 つは、昨年暮れに愛知県芸術文化センターで、本学の管弦楽団 60 周年記念演奏会にあわせて、ベートーベン第九の演奏です。教職員、学生、一般市民と、ヨーロッパなどからお招きした 4 名のソリストとともに奏でた美しくも力強い合唱は迫りに溢れ、1,700 名の観衆を感動の輪で魅了しました。you-tube にアップしていますので、是非聞いてください。



2つ目は、芸術工学部の先生と学生が制作した映画です。タイトルは「儂時計」。名市大が開学した昭和25年当時の名市大の学生生活を描いています。社会も学生も苦勞する中において、大きな夢を65年後の未来の学生に托す物語です。先日ミッドランドスクエアで上映会がありました。学内でも上映が予定されています。是非ご覧ください。

## 田坂学生奨学基金

故 田坂忠嗣（たさかただし）氏からのご寄付。

看護学部生に奨学金を貸与し、  
修学に資する。



この場をおかりしてお伝えしたいことがあります。看護学部にご多額のご寄付をいただいた田坂忠嗣さんのことです。田坂さんは、一昨年、がんの末期で本院に入院された時、看護師の献身的な姿に心打たれました。田坂さんは若い頃、職場の社長さんから経済的支援を得て大学に行かれた感謝の気持ちを、看護学生の奨学基金に托されたものです。看護学部の皆さん、田坂さんの思いを心に抱き、思いやりに満ちた看護師になってください。

これらの取り組みは、一つの学部や病院だけで出来るものではなく、オール名市大としてお互いが支え合うことから生まれたものです。

## 司馬 遼太郎『洪庵のたいまつ』

「世のために 尽くした人の一生ほど  
美しいものはない」

緒方 洪庵

大村益次郎や福沢諭吉を育てた

『二十一世紀に生きる君たちへ(併載:洪庵のたいまつ)』(司馬遼太郎/著 世界文化社 2001.2)より

最後に、司馬遼太郎さんの話に戻りたいと思います。

司馬さんは、「21世紀に生きる君たちへ」を執筆した同じ年に、「洪庵のたいまつ」という随筆を小学5年生の教科書に残されています。

司馬さんは、「世のために尽くした人の一生ほど、美しいものはない」、その人こそ、緒方洪庵だと述べています。

洪庵は、江戸時代の鎖国のなか、オランダ医学を学び、身分の差別なく教える「適塾」を自宅につくり、近代社会の礎を築いた大村益次郎や福沢諭吉など多くの逸材を育てました。

## 緒方洪庵『十二か条訓戒』



一、人の為<sup>レ</sup>に生活<sup>シ</sup>て、  
己<sup>ノ</sup>為<sup>ニ</sup>に生活<sup>セ</sup>ざるを本體<sup>ト</sup>す  
安逸<sup>ヲ</sup>を思<sup>ハ</sup>わず、名利<sup>ヲ</sup>を顧<sup>ミ</sup>みず、  
唯<sup>ニ</sup>己<sup>ヲ</sup>をすて、人<sup>ヲ</sup>を救<sup>フ</sup>んことを  
希<sup>ム</sup>べし

『二十一世紀に生きる君たちへ(併載:洪庵のたいまつ)』(司馬遼太郎/著 世界文化社 2001.2)より

洪庵は、自分自身と弟子達には戒めとして、十二か条からなる訓かいを認め、その第一条には、「医師は、人のためにあつて自分のためではない。有名になろうと思ふな。利益を追うな。ただただ自分を捨てよ。人を救うことだけを考えよ。」と説いています。

もちろん、ここにある医師は全ての職種に置きかえることができるものです。

## 洪庵の「たいまつ」の火



本日ご卒業の皆さん

洪庵の偉大さは、オランダ医学で学んだ「たいまつ」の火を、よりいっそう大きくし、福沢諭吉などの弟子一人一人に移し続けたことです。弟子たちの火はやがてそれぞれの分野であかあかと輝き、日本の近代を照らしたのです。

本日、名市大から巣立っていかれる皆さんは、洪庵のたいまつのごとく、社会を照らす人となり、未来を切り拓く人材になってください。それが皆さんのご両親ならびに私たち名市大教職員の思いであります。

本学は、輝かしい伝統のもと、世界に冠たる大学をめざして飛躍してまいります。皆さんは、名市大に誇りと愛を持ち、開学100周年の34年後には、輝かしい未来を切り拓いておられることを心より願って学長の式辞といたします。

本日はおめでとうございます。

平成28年3月25日

名古屋市立大学 学長

郡 健二郎